

2013年8月22日／浪宏友ビジネス縁起観塾

## 自分らしく生きる

資料：庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』（佼成出版社）「法師功德品」

### 1. 法師功德品の概要

法師功德品では、五種法師の修行を行う人が、眼・耳・鼻・舌・身・意の六根に受ける功德について詳しく述べています。

### 2. 五種法師（庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』p.102～103）

#### (1) 五種法師

受持(じゅじ) : 教えを受持していく決意を念々に新たにすること。

読(どく) : 教えをくりかえして学ぶこと。

誦(じゆ) : それを誦んじることができるよう心に植えつけること。

解説(げせつ) : ひとのために解説してあげること。

書写(しょしゃ) : その教えが世にひろまるようにあらゆる努力をすること。

#### (2) 法華経の特色

この五つの行のなかで〈ひとのために説く(解説)〉・〈教えを世にひろめる(書写)〉という積極的な行動をとくに強調し、それでなければ人間社会は救われぬのだと説かれるのが、法華経の大きな特色です云々。

### 3. 清浄なる六根の功德

#### (1) 六根とは

六根とは、眼根・耳根・鼻根・舌根・身根・意根のことです。

「根」とは、ものごとに触れてそれがなんであるかを知り分けるはたらきを言います。現代の心理学における、感覚・知覚・認知の作用とほぼ同じと考えてよいと思われます。

#### (2) 知り分けかたが変わる

さまざまな要因によって、ものごとの知り分け方がまったく異なってきます。

要因には、経験・知識・記憶・概念、自分の興味や問題意識、自分の欲望や願望、自分の好き嫌い、そのときの状況・体調・感情、本能的な自己保全意識その他があります。

#### (3) 自分本位

自分本位の心がはたらくことによって、知り分け方を歪ませたり誤らせたりします。

#### (4) 六根と自分の事実

六根によって、ビジネス縁起観でいう自分の事実が作られると言っていいでしょう。

六根が汚れていればいるほど、実際の事実から離れた自分の事実が作られます。

六根が清浄であればあるほど、実際の事実に近い自分の事実が作られます。

#### (5) 六根清浄

五種法師を行わずることによって、眼・耳・鼻・舌・身・意の六根が清浄となります。

清浄なる六根は、ものごとを歪みなく、また誤りなく知り分け、実際の事実に近い自分の事実を作ります。これが清浄なる六根の功德です。

#### 4. 法師功德品に説かれる清浄なる六根の功德の概要

##### (1) 清浄なる眼根の功德

五種法師を行う人は、父母からいただいた肉眼が清浄となって、あらゆる世界のあらゆる人々について、その行いの原因・条件・結果・影響のありさまを、すべて見ることができます。

##### (2) 清浄なる耳根の功德

五種法師を行う人は、父母からいただいた耳が清浄となって、あらゆる世界のあらゆる人々の声を聞き分け、心を乱されることがありません。

##### (3) 清浄なる鼻根の功德

五種法師を行う人は、鼻が清浄となって、あらゆる世界のあらゆる人々の状態を、香りによって知り分けることができます。その香りによって心を乱されることはありません。

##### (4) 清浄なる舌根の功德

① 五種法師を行う人は、どのような味のものでも、舌の上におけば、すべて素晴らしい味になります。

② 五種法師を行う人が、人々の中で話をすれば、聞く人々がみんな喜びます。この人が説法するときは、もろもろの仏さまや仏さまの弟子たちがいつも念じて守ってくださり、ときにはお姿を現してくださいます。

##### (5) 清浄なる身根の功德

五種法師を行う人は、その身が浄らかになって、あらゆる世界のあらゆる人々の姿を自分の身の中に現し、自他一体の境地に入ることができます。

##### (6) 清浄なる意根の功德

五種法師を行う人は、意（心）が清浄となり、仏さまの教えのほんの一言を学んだだけでも、その教えに含まれる多大な意味に通じることができます。ですから一か月でも、四か月でも、一年でも、人びとに説き続けることができます。

#### 5. 世法も仏法に一致

##### (1) 世法

「世」は「人間の社会」という意味です。人間の社会も、真理によって動いているのですが、多くの人びとは智慧が無く、また心が濁っているために、真理から外れた生き方をしています。

##### (2) 世法が正法に合致する（庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』p. 187）

この品（法師功德品）のなかに、見のがしてはならぬことばがあります。それは〈若し俗間の経書・治世の語言・資生の業等を説かんも、皆正法に順ぜん〉という一句です。

現代語に訳せば「もしその人（五種法師を行う人）が、日常生活についての教えや、世を治めるための言論や、産業についての指導を行っても、それはおのずから正法に合致するものでありましょう」ということです。

##### (3) 正法は社会へのひろがりをもつ（同p. 187）

正法というものは、けっしてたんに精神的な、個人的なものではなく、かならず社会へのひろがりをもつものです。そうでなければ、究極において人類全体を救うことはできないのです。

## 6. 自分らしく生きる

自分らしい生きかたとは、自分の本来の生命を生き生きと発現し、すくすくと伸ばすことであると言えます。それは清浄な六根による生きかたであり、世間で人々のお役に立つ生きかたです。

真理に合った生き方をするとき、本来の自分が現れるのです。

本来の自分は、自分・自分が接する人々・世間のあらゆる人々を、その本来の生命のままに生かすはたらきをするのです。それが自分らしい生き方にほかなりません。

## 7. 菩薩の四無畏（庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』p. 184~185）

お釈迦様は六根清浄の功德の最初に、眼（まなこ）の功德について説かれますが、その偈の中に「無所畏の心を以て 是の法華経を説かん」という一節があります。

これはむかしから〈菩薩の四無畏（しむい）〉として尊ばれてきたものです。つまり、「なにものをも恐れず、はばかりことなく、信ずるところを説く、どうどうたる心境や態度」のことです。

### (1) 総持不忘（そうじふもう）

自分が聞いたすべての教えをしっかりと記憶して忘れることがなければ、だれにたいして法を説いても、恐れはばかりとこころがない。

### (2) 尽知法薬（じんちほうやく）

衆生のひとりひとりの機根と、心のもちかたのちがいによって、それぞれに適応した法の薬を処方できれば、何の心配もなく法を説くことができる。

### (3) 善能問答（ぜんのうもんどう）

どんな質問や反駁にたいしても、真理に従って、はっきり筋道を立て、だれにも納得できるように答えてあげられれば、何の恐れもなく法を説くことができる。

### (4) 能断物議（のうだんもつぎ）

一切衆生をことごとく救おうという仏さまの大慈悲に通ずるような境地に立って、微妙な疑問に対しても「仏さまの真意はこうなのだ」といい切ってあげられれば、どんな人にたいしても、恐れはばかりとこころがなく法を説ける。

## 8. 菩薩の四無畏の受け取り方（同p. 186）

### (1) 修行の手本として

われわれ菩薩行を修しているものは、この四つの理想像をいつも胸におき、この四箇条を心のいましめとして、法を説けばいいのです。

### (2) 難問に対して

もし、むずかしい問題につきあたったり、もてあますような質問を受けた場合は、率直に「これはわたしの力に余る問題ですから、よく調べ、またはしかるべき人に教えを受けて、後日それをお取り次ぎしましょう」と答えるべきであって、その場をいいかげんにごまかすようなことをしてはなりません。

そして、そういう答えかたは、けっして説法者のねうちを低くするものではなく、かえって聞く人の信頼性を高める結果となるものです。